

令和6年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	那覇市			代表者名	知念 寛
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名	市民文化部まちづくり協働推進課	連絡先電話番号	098-861-3846
担当者役職	主査	担当者氏名	新垣 威知郎	連絡先E-mail	
住所	901-8585 沖縄県那覇市泉崎1-1-1				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署	
担当者氏名		連絡先電話番号	
		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（単独）	事業名	なは市民協働大学院
概要	職員及び市民活動団体へのデータ活用とオープンデータ化の機運を高める		
支援を求める分野	オープンデータ AI 活用 人材（DX推進のための機運の醸成） 人材（DXに関する知識習得・研修・育成）		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	有	39	令和6年11月13日	講演&フォローアップ	実地
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和6年11月15日	フォローアップ(実地)	13時30分	21時00分	60
				活動時間（分）	390
2-2. 派遣場所	会場名	那覇市役所本庁舎	最寄駅	ゆいレール県庁前駅	
	所在地	沖縄県那覇市泉崎1丁目1番1号	最寄駅からの交通手段	徒歩	

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	多田 功
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	Well-beingの活用（データ利活用の観点）という内容で本市と本市類似都市とのダッシュボードを活用したワークショップを行ってもらったがとても分かりやすく前日に引き続きよりWell-beingの理解が深まることにも、Well-beingを読み解いてのデータ利活用への深いが広まった。夕方からはなは市民協働大学院受講生に対して12月7日の最終発表会を前に地域課題発見及び解決に向けた企画についてデータ利活用の観点からフォローアップ及び企画のブラッシュアップを行っていただいたが、きめ細かく対応していただき、受講生にとっても多くの学びを得られる場となった。
アドバイザーへの要望事項	特にございません。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	35人
	属性	企業・団体	その他(学生など)
	自治体職員	住民	
人数	20	15	0

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	本市においてはオープンデータ化の機運が薄く、業務にデータを活用する頻度も低かった。また、本市が市民に学びの場を提供するなは市民協働大学院においても、受講生による地域課題の派遣及び解決に向けてデータに裏付けされた具体的な企画を作成することが困難であった。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	本市職員のオープンデータ化の機運の醸成及び、業務における積極的なデータ活用、なは市民協働大学院受講生が地域課題の発見・解決にあたってデータに裏付けされた分析、データを活用した仮説を立てられることで、本当の地域の課題を発見し、それを解決できるようになること。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	Well-beingの活用(データ利活用の観点)について本市と本市類似都市とのダッシュボードを活用したワークショップを行ってもらったがとても分かりやすく前日に引き続きよりWell-beingの理解が深まることも、Well-beingを読み解いてのデータ利活用への深いが広まった。 夕方からはなは市民協働大学院受講生に対して12月7日の最終成果発表会を前に地域課題発見及び解決についてデータ利活用の観点からフォローアップ及び企画のブラッシュアップを行ってもらった。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	SDGsの次の指標と言われるWell-beingを理解することで、本市の保有する情報のオープンデータ化について、Well-beingの観点から利活用可能な形で行なうこともできると知り益々オープンデータ化へ向けた機運が高まった。 なは市民協働大学院受講生への企画のフォローアップ及びブラッシュアップを行ってもらったことによりその企画の完成度がとても高まった。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない 具体的な成果物はまだなく、今後本市の保有する情報を積極的にオープンデータ化するとともに、それらのデータを活用し本市の地域課題の発見及び解決に今回の講座を活かしていきたい。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	オープンデータに向けた機運の醸成、その手法等についてご教示いただいたが、本市の保有する情報のオープンデータ化に向けては、他部署で連携を図り行っていく必要があり、今後オープンデータ化へ向けて今回の支援を活かしていきWell-beingの観点からも利活用できるようなオープンデータの構築を目指す。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 大学院受講生に企画のフォローアップ及びブラッシュアップについてアンケートを行った結果、「講師からの指摘がとても参考になり、より良い企画を立案できそう」等の結果があり、最終成果発表会へ向けてこちらが狙った以上の効果が期待できた。	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	⑤その他 今回の講座をふまえて具体的な内容を固めてから予算措置等を行い、実際に推進していきたい。
4-4. 事業の最終的な目指す姿	本市の保有する情報を可能な限りオープンデータ化し、市民自らがそのデータを活用し地域課題を発見し、自ら又は行政と協働し解決を行い、より住み良い地域を実現していける那覇市を目指します。	

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可 掲載可

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

